

一九七七年二月一日第三種郵便物認可

発行所 社会通信社 発行人 滝野 忠

東京都渋谷区本町六丁目二八の二 コーポザンケ谷九〇四 電話(03)3377-4649 FAX(03)3299-5367
振替 〇〇一〇〇一九一五八四三二 労金 中央労金本店 No 1154163

購読料 月額 600円 6カ月前納制

〈もくじ〉

■巻頭言

連合会長さんは、いつ怒る

伊勢 太郎……………2

自民党支配は打ち破れるか

稲村 守……………3

— 京都府知事選挙の教訓 —

「国鉄闘争に勝利する共闘会議」結成……………5

「二〇四七名の不当解雇撤回、国鉄闘争に勝利する共闘会議」趣意書……………5

日経連・経団連が統合へ……………6

— 活動方針に労組と連携うたう —

四大金融グループは出そろったけれど……………8

なりふりかまわぬ自治労攻撃……………9

— 帯広市長選での新たな傾向 —

楽しかったお花見・春の句会……………10

未完のクレーデター……………11

— ベネズエラ政争の背景 —

脱原発は世界の流れ……………12

— 浜岡原発を視察 —

読者からのおたより……………13

旬刊 社会通信

NO. 834

二〇〇二年五月一日号

二〇〇二年五月一日発行
(毎月一日・二日・二二日三回発行)

連合会長さんは、いつ怒る

連合の集会にいくと、ガツカリさせられてしまいます。連合会長の笹森さんは集会のおびに「怒る時は怒る、今怒らねばいつ怒るのか」と強調され、連合集会のアピールには「われわれはもう我慢できない。もうだまされたい」とくり返されます。

先般の連合集会（三月二九日）でもそうでした。「闘い争うとしている以上、闘いから後退することは許されない。恐れるな、くじけるな、ひるむな、闘いに勝ち抜こう」と激を飛ばされてきました、またその前の集会（三月一日）では、「悪条件下ではあるが、今ほど労働組合の存在と役割が求められている時代はない。闘いに向け、ひるむな、くじけるな、恐れるな、最後まで戦い抜こう」と述べられています。

しかし、いっこうにその言葉が実行されません。連合が発出されるさまざまな文書の中味についても同じです。連合が三月七日の中執で決定された「ワークシェアリングに関する連合の考え方」（ウィークリー連合、三月二二日付）には、①不払い残業と恒常的残業の規制、②時間外割増率の引き上げ、③典型／非典型の区分けの撤廃、④均等待遇等、魅力的な文々にあふれています。

労働組合を愛する組合員には、連合は悪いことばかりいつてはいない、笹森会長も演説では一生懸命じゃないか、連合のいいところを伸ばしていくのが、われわれ組合員の責任でもあるのではと、笹森さんに同情される仲間もいらっしやいます。私はこうした意見に与（く）みしえなくなりました。笹森さんがいっこうに怒ろうとされないからです。笹森さん、あなたはどこかのジャーナリズムで、「いつ怒るのか」との質問に、「まだその時期じゃない」と答えられていましたね。そこで質問です。「その時期とはいつですか」と。

先日、都内で労働組合の集会がおこなわれました。福祉会館でした。何冊か雑誌が並べられており、手にしたのが、『プレジデント』でした。パラパラとページをめくり始め、巻頭にあったのがどこかで見た顔。そうあなたはです。くわしくは覚えておりませんが、笹森さん、あなたは人間には「読み頭、書き頭、話し頭があり、ぼくは話し頭の人間」と自認されていましたね。

この自己紹介には思わず苦笑させられてしまいました。あなたについては事務局長時代から、じつに能弁な御仁でいらっしやる。立て板に水を地で行かれるお方とつねづね感心させられてきたからです。と同時に、この自己紹介にあなたの限界もはっきりと知らされました。時の人だった真紀子さんや辻元さんと同じように、口から先にお生まれになられた方だということがはっきりわかったからです。

あなたは口では「恐れるな、ひるむな、くじけるな」とおっしゃいます。しかし、実際はあなたが「恐れ、ひるみ、くじけて」いらっしやるのでは。いったいなにを恐れていらっしやるのでしょうか。それとも、頭より先に口が動くということは、もともと本気じゃないんでねとおっしゃるのでしょうか。

朝日（四月九日）の調査（「雇用確保を優先し、賃上げを見送る労組の姿勢について」におそらくほっと胸をなでおろしている姿が目に見えます。数字は今の労働組合の方針を支持しているかに見えるからです。しかし、これで安心してくだすっては困ります。現

場では恐れても、ひるんでも、くじけてもいられない状態が深く静かに進行し始めていますから。連合ゼネラル・アクションのあなた方も驚かされた成功はその証明だと思われませんが、いかがでしょう。

(伊勢 太郎)

自民党支配は打ち破れるか――

――京都府知事選挙の教訓――

大善戦

横浜に続いて自民党・小泉政権を揺るがすことになるか、京都府知事選挙は四月七日投票で実施された。再挑戦の革新無所属・森川明候補(弁護士)は前回比三万増の三九万余票、当選した相乗り山田啓二候補(副知事)は現・荒巻知事が前回取った票を三万票減らし四八万余票、「野中ひろむ自民党元幹事長の後継者」とかつて言われた中川泰弘候補(JA京都会長)は十万弱の票を取り、森川候補は大善戦健闘した(投票率は前回比五・〇七%アップの四九・一八%)。しかし一方、「三十年に一度のチャンス」とも言われたかつてない好機を逃したのも事実ではある。

昨年参院選では、森川さんを推薦・支持した共産・新社会の比例票は一八・六万票で、森川さんはその倍以上の二一〇%を得票し、山田候補を推薦した自公保民社の比例票は八七万票で、彼はその五五%しか取れなかった。マスコミの出口調査では、無党派の半数は森川に。民主党支持者の四割、社民党支持者の六割も森川に投票。京都市内では森川二二・二万、山田二二・八万で、六千票まで迫った。

森川さんは前回一年三ヶ月前から本番並みの活動をし、今回は出遅れ、三ヶ月の活動となった。「勝ちに行つた」二年前の京都市長選で革新・井上吉郎候補が敗北、千葉や長野の不思議な風に二の足を踏み、昨夏参院選京都選挙区で共産敗北(定数二で自民と民主が当選)、そして市民運動・新社会党・共産党などでより幅広い候補で再挑戦した神戸市長選挙の不振などから出馬表明が遅れた。が、その遅れゆえの昨年末の現職・荒巻知事不出馬表明から森川さんにツキが回りだした。

「三十年に一度のチャンス」だったが

ムネオ・加藤疑惑など金権腐敗の自民党政治に対する国民的批判の高まり、その大ボス・野中の一声で決まった天下りの官僚候補(山田は自治省から京都に来て二年)への批判、田中外相更迭問題での小泉内閣の支持率の急落、国政(自公保と四野党の対立)と府政(共産・新社会を除くオール与党)のねじれ、敵の内ゲバ(京大吉田和男教授を推した京セラなど京都財界・民主党とそれを消した野中との対立、野中の地元である八木町長・十万JAJA京都会長長の造反)、社民・辻元清美問題さえ追い風にしてしまった(社民党は山田推薦)。

二四年続いた保守府政、中でも四期十六年の荒巻府政は国の言いなり(自民党元幹事長・野中ひろむ議員の言いなりということ)で、存在感のない府政であった。昨年末に、誰にもどの党にも相談なく、行き詰まり破綻の中で無責任にも府政を投げ出したものであった。京都地域経済の落ち込みはひどく、九〇年代の事業所減少率は四七都道府県で最悪、完全失業率も沖繩、大阪に次いでワースト三。京都財界でさえ、「沈滞する京都の活性化

と、京都府民を主人公にする府政の実現」と述べざるを得ないほどであった。

また、財政破綻と丹後リゾート、南部学研都市、京都御苑の迎賓館、京都市内高速道路乗り入れなど一連の大型公共事業（計画）の破綻も明らかとなっていた。

幅広い学者文化人の支援は、樹木希林さんの「塀だけを見ても石塀、板塀、土塀等と職人の幅と奥の深さを感じます。町家がポロリポロリと消えています。――京都再生があるなら微力ですが賛同します」というメッセージに象徴されている思いが、「従来の枠」を取っ払った。鶴見俊輔さんは二年前の京都市長選から。岡部伊都子さんも樹木さん同様今回初めてだが、有事立法反対京都シンポ（三月十七日）で社民・辻元、共産・穀田衆議同席の場で平和への思い・沖繩への熱い思いを訴え。

またこれら幅広い学者文化人の支援には、前回に続く、少なくない障害を乗り越えて「革新の大義」で支持決定した新社会党の存在も無視できない。

いくつかの教訓

しかし、これだけの有利な条件を生かしてなぜ勝てなかったのだろうか。

一つには「蜷川府政は独裁」「暗黒府政に戻すな」の反蜷川攻撃のオンパレードが、山田陣営の演説会・宣伝で行われたこと。二四年たつてもなお目の敵（かたき）にされるほど、蜷川革新府政とは存在感のあるものだったのである。当たらない批判で、「京都縦貫道」などは故・蜷川知事の発案だったのだが、「蜷川さんは良かったけど、国に反対していたから、道路や橋をつくるのが京都は遅れたらしいで」というのは、今なお俗耳に入る宣伝ではあった（自民党・保守府政で二四年なのだから、もし何か不都合あれば自民党のせいなのだが）。

二つには相手陣営の組織力の差、「『野中王国』組織で死守」（朝日新聞）ということ。共産党秘書給与問題で野中ひろむが三月三〇日に演説して以降、兵本問題掲載の週刊新潮発売、兵本某が東京地検に再告訴しマスコミ各社が取り上げ、投票日にはフジテレビで共産党志位委員長、朝日放送では同じく筆坂書記局長代行が秘書給与問題で集中砲火を浴びるといふ「力」も使った大掛かりな攻撃となった。

三つには、「横浜ショック」で、山田陣営が引き締まったこと。特に、横を向いていた京セラなど財界が「大極的立場に立って」山田支援を一週間やった。

これに対し、森川明候補とその選挙母体・民主府政の会の政策協定は前回までと大きく趣きを変え、部落問題などでの共産党方針剥き出しのものはなくし、結集しやすい大項目だけとした。これは新社会党などが支持しやすくし、全労協加盟労組や幅広い市民運動、前述の学者文化人・タレントなども賛同を寄せやすいものとしたので大きく評価はできる。

しかし一方、大集会で森川候補の後に、共産党中央幹部が長い大演説会をやって候補者がすっかりかすみ、せっかく伸びた票を収縮してしまうことや、選挙期間中に開催された『国労冬物語』上映会五百人参加に共産党主導の国労京滋地区本部が民主府政の会に要請文を出して森川候補の挨拶を止めてしまう（結果は全労連・全労協加盟の京都総評議長が代理メッセージ）などという、内部からも批判のある「陣営」の体質は変わっていない。

（稲村 守）

「国鉄闘争に勝利する共闘会議」 結成

「一〇四七名の不当解雇撤回、国鉄闘争勝利する共闘会議」が四月一六日結成された。会場はきゅりあん（東京・大井町）。一千名余を収容するこの会場は立錐の余地もないほどに参加者で埋めつくされた。国鉄闘争は新たな段階に入ったのである。

新たな段階に入った国鉄闘争を特徴づける発言が、つづいた。集会議長の星野良明氏（東京清掃労組委員長）は、「リストラ・大量失業時代の要請をになう闘い。今日を出発点に市民参加の新しい質をもつ運動を展開したい」と述べ、準備委員長の二瓶久勝氏（オリジン電気労働組合書記長）は、共闘会議の性格について、「四党合意が破綻したことから出発し、まず名誉回復を考えたい。大衆行動を積み上げ名誉回復をJRと政府から引き出す。これが目標」と。

連帯のあいさつでは「解雇撤回・地元JR復帰を願う仲間たちといかなる困難をも乗り越え、ともに闘う」という矢澤賢氏（都労連委員長）のメッセージが紹介されたあと、河村洋二氏（全国農団労働委員長）は、「国鉄闘争は闘争団、国労だけの問題ではなくわれわれ自身の問題」、さらに柳沢淳氏（特殊法人労働議長）は「国鉄労働者は私たちの北極星、灯台、そして座標軸」と、ともにたたかう決意を述べた。

つづいて川田悦子衆議院議員、フランス国鉄労組・SUD-Railのメッセージが紹介され、内田泰博事務局長から資料に紹介した基調が報告された。「不当労働行為があった、その責任をとれ」というのがわれわれの目的と。

このあと、三〇団体、五万人が賛同するという支援の拡がりの中で、「国労闘争団とともに闘う新潟の会」「人らしく生きよう」学生上映実行委員会、四国の仲間、そして国労本体の仲間が発言。先進的なたたかいをモデルに国鉄闘争勝利へ組織を広く大きくすることが心に響いた。

役員には議長・二瓶久勝（オリジン電気労働書記長）、副議長・星野良明（東京清掃労組書記長）、柳沢淳（特殊法人労働議長）、事務局長・内田泰博（国労闘争団）が選ばれた。

なお、国労本部と国鉄闘争支援中央共闘会議は四月一七日、新たに結成された組織は「国労とは一切かわりもなく採用差別事件の解決に責任も持たない分裂組織」、「共闘の場に分裂を持ち込む行為」との通達を発している。

「一〇四七名の不当解雇撤回、国鉄闘争に勝利する共闘会議」

（略称、国鉄闘争共闘会議） 趣意書

小泉内閣の痛みを伴う聖域なき構造改革は、特殊法人の廃止・民営化、公務員・司法制度改革、社会保障制度の見直し等多岐にわたりますが、銀行の不良債権処理に伴う企業再編・合併・倒産等が、この機に乗じた大規模なリストラ・首切りとして強行されています。

一方、調査史上最悪の完全失業率に達していることを総務省の発表が顕著に示しているにも拘わらず、政府は具体的対策を講じていません。小泉構造改革は大企業を擁護し、政治家、高級官僚の権益をそのままにし、労働者、国民に犠牲を押しつけるだけということが明らかになっております。さらに、戦後、私達が五〇数年かけて築き上げた「生活と権利」そして「平和」さえもが根底より破壊されようとしています。

このような状況下において、反リストラ・反首切りの原点と言われる国鉄闘争の解決は日本の労働運動に決定的な意味を持ちます。この国鉄闘争に勝利するために、国鉄闘争共闘会議への結集を訴えます。

一、共闘会議の性格

1、一〇四七名の不当解雇を撤回し国鉄闘争に勝利するためには、二月一五日付で国労本部がIL

〇へ提出した書簡からも、既に明らかかなようにJRに法的責任がないとする四党合意が「破綻」しているという事実から出発しなればなりません。

闘争団・家族が筆舌につくせない辛苦を味わいながら十五年間も闘ってきたのは「自分達の闘い方・生き方が正しい」「人らしく生きよう」という確信からです。したがって解決の道筋は、闘争団員・家族のこの気持ちを最大限尊重することにあります。具体的には、人間の尊厳を取り戻す名譽回復を第一に考え、そして「JRへの復帰、解決金、年金等」を獲得していくことでもあります。

2、こうした当然の要求を獲得するため、大衆運動を基本に政府・JR会社に迫る闘いを進めます。国家的不当労働行為と言われるように、相手は国家権力であり巨大資本であります。しかし、私達には十五年間の争議解決への闘いの重みがあります。更に、新しく加わる労働組合、市民が多数います。こうした多くの仲間が結集し、短期に解決出来るような運動を実践していくのもです。そして、政府・JR会社との交渉団を結成し、いつでも解決するための話し合いの姿勢を明確にしていきたいと思います。

3、この共闘会議は、労働組合やその他の団体と市民である個人とで構成してまいります。そして重要なことは、JR内の良心的な国労組合員との連帯・連携です。十五年間のあらゆる差別を受けても、今なお国労に留まり闘っていることを重く受け止めなければなりません。

確かに一部の幹部役員は今までの国労の闘いを放棄しようとしています。職場の多くの国労組合員は闘争団員・家族と連帯し、国労の伝統ある闘いを継承していくことを希望しています。

したがって、国鉄闘争共闘会議はそのような国労組合員との連帯・連携を強化していきます。

4、グローバルゼーションの進行のなかで、今後の労働運動は国際連帯が大きな意味を持ちます。ILO条約勧告適用専門家委員会に対し、批准国として日本国内において「八七号、九八号条約に違反している」と、日本の組合二六〇団体が、意見具申を行い受理されたことを踏まえ、三月にILO国際労働基準部会などへ追加情報提供を行いました。

今後このような具体的な行動を積み上げ、各国の労働組合との国際連帯を強めていくものです。5、いま、日本の労働運動は重大な局面に立たされています。

労働委員会制度が無力化し、国鉄方式と言われる偽装倒産、分社化によるリストラ・首切りが日常化し、労働組合の存在価値が問われています。史上最悪の失業率五・三%、事実上五〇〇万人以上に達する失業者の存在があり、職場ではリストラの嵐が吹き荒れ、賃下げを含めた合理化攻撃や倒産により、生活が破綻する状況にまで追い込まれています。これを突破するには、企業外に目を向け、社会的広がりを持つ闘いを展開する必要があります。このような闘いの先頭に立ち、闘い抜くことが国鉄闘争の勝利的展望を切り開き、日本の労働運動の再生に直結する道であります。

二、当面の活動について

1、大衆行動について

① 国鉄闘争共闘会議と鉄建公団訴訟原告団代表による交渉団を編成し、政府、JR会社、鉄建公団、政党、国会議員等への申し入れ、要請を開始します。

② 裁判期日や六月のJR株主総会にあわせて大衆行動を設定します。

③ 六月に国鉄闘争共闘会議全国交流集会を開き、以降の運動の意思統一を図ります。

④ 最高裁闘争及び鉄建公団訴訟については、予想される裁判期日に傍聴体制はもとより、大衆行動を行います。更には、第二次鉄建公団提訴の準備を進めます。

①、六月四日〜二〇日に開かれるILO総会に向け、当面一〇〇〇組合を目標に共同申立組合を拡大します。

② 各国労組代表が集まるILO総会への代表団派遣を準備します。

3、組織拡大について

① 国鉄闘争共闘会議への団体・個人加盟を強力に進めます。

② 「人らしく生きよう」の全国上映会を進め、国鉄闘争への理解と関心を広げます。③ 闘争団の全国オルグ活動を受け入れ、物販活動を強化します。

日経連・経団連が統合へ

―活動方針に労組と連携うたう―

日経連（日本経営者団体連盟）と経団連（経済団体連合会）は五月二八日統合し、日本経済団体連合会（JBF、ジャパン・ビジネス・フェデレーション）となる。日経連は労務管理を専門とし、経団連は政治対策―政権党への献金、その見返りとしての政策遂行要

請—を主な任務とした。この他、日本には日商（日本商工会議所）、経済同友会、関西経営者連盟、社会経済生産性本部がある。

日経連、経団連は東京証券取引所一部上場の大企業を中心に組織されるのに、日商は中小企業を中心とする組織であり、経済同友会は大企業経営者の同好会的サークル組織。ともに資本の利益を政治・政策に反映させることにその目的がある。

国策研究会 これらとちよつと性格を異にするのが社会経済生産性本部である。

社会経済生産性本部は財界の統合第一弾組織といふべきもので、一九九四年にそれまであった日本生産性本部、社会経済国民会議が合併してつくられた。日本生産性本部の主要構成部隊は生産性向上を目的に労働組合と経営者、社会経済国民会議は労働組合、経営者それに政府という構成で、政労資の間にあつてその調整役を果たしたのが、官僚という構図であつた。

日本生産性本部は生産性向上運動、労資協調路線を労働組合に浸透させることを最大任務とし、社会経済国民会議はそのうえに政労資の協調政策を実現することを目的とした。労働組合がたたかわなくなり、政府を中心とする審議会に労組が加わるようになって、この二つの組織の存在の意味は消失したのが一九八〇年代であつた。自民一党支配がさらに強まると予想された八十年代後半、歴史はとつぜん動き自民党支持基盤は動揺することになった。

この時、日本生産性本部と社会経済国民会議は統合し、社会経済生産性本部をつくり、国策研究会へと衣替えしたのである。その具体化が民間政治臨調、政治改革推進協議会である。構成部隊は、政・財・官・労・学、そしてマスコミである。社会の上層部をとりこみ、大政翼賛的政治状況—二大政党制—づくりを目的に結成された組織である。

したがつて、民間政治臨調は労働組合幹部と経営者の談合の場、国の政策づくりの地ならしの場という役割をもつ。民間政治臨調は、一九九〇年代後半、新しい日本をつくる会（略称・二一世紀臨調）と改称され、現在、「戦後憲法体制の包括的検討」の作業が隠密裡におこなわれ、次つぎと政策提言がおこなわれている状況にある。

連合と新経済団体 今度結成される財界新団体JBFは、社会経済生産性本部とは違い表の組織である。その会員は大企業千三百を中心に、地方五十、業種百二十他、約千六百で構成される。

JBFは、①二一世紀における「民主導の活力ある経済社会」の実現、②自己責任原則と人間尊重のもとでの自由・公正・透明な市場経済体制の確立を「活動理念」として掲げる他、①経済界の意見の集約とその実現、②各界（政治、行政、労働組合、市民等）との対話の促進を「行動原理」とする。

当面の主要活動方針では経済・社会構造改革の実現、行政改革・規制改革の推進を二つの柱とし、具体的には、①財政構造改革、②社会保障制度改革、③税制の抜本的改革、④金融システムの構造改革、⑤地方分権の推進がうたわれる。

JBFはこの他、健全な労使関係の発展と経営システムの改善のため、①連合など労働組合との意志疎通をはかり、②意見の一致したものは共同して提言・行動すること、③国および地方における社会・労働政策について常時対話を行い、社会合意の形成に努めると、労働組合とのパートナーシップへの熱意を示している。

連合は財界統合を歓迎の意向だ。というのは、連合の戦略は「働く者を中心とする福祉社会の建設」は枕言葉で、ホンネは「参加」、つまり参加・提言・改革にある。労資のパートナーシップの強化は、連合とJBFが同意すれば、政権党の政策として取り入れら

れる可能性が強まるというのがその思惑だ。
その労資パートナーシップの先行指標が三月二九に合意されワークシェアリングについての基本合意である。

四大金融グループは出そろったけれど

新宿副都心、新宿駅西口の甲州街道沿いには大銀行の支店が軒を並べている。さくら銀行と住友銀行の合併行の三井住友銀行、三和銀行と東海銀行と東洋信託の合併行のUFG銀行、九五年に合併した東京銀行と三菱銀行の東京三菱銀行。そしてこの四月一日、富士銀行、第一勧業銀行、日本興銀が合併し、みずほフィナンシャルグループとなる。

数年前には九つあった都市銀行は四つの巨大金融グループに再編される。この他、この三月に大和銀行とあさひ銀行が合併し、大和銀ホールディングスを形成している。このグループは地域銀行の連合体である。

金融自由化への対処策として始まり、一九九八年の北海道拓殖銀行、山一証券等の大金融グループの倒産、さらには不良債権処理で追いつめられ、ただ、国際的大競争に生き残り、金融システム不安を克服するという名目で群れて流れておこなわれたのが銀行合併だった。日本の新たな巨大金融グループは勝ち残れるか。

巨大銀行には不良債権処理のためすでに三二兆円が投入され、処理累積額は七一兆八〇〇億円というように、庶民にはまったくどれほどの規模なのかも想像もつかない資金が投入された。しかし、これでも不良債権は減るところかふくらみつつげている。たとえば、〇一年三月の一七兆六八〇億円が〇一年九月には二〇兆一四〇億円になり、一〇年十二月には二四兆円をこえるというように。このほど明らかにされた日銀の特別金融検査では、不良債権はさらに三・七兆円も積み上がった。

世界の銀行は金貸し業から投機業にすっかり様変わりしてしまった。これが金融自由化の本質である。日本には一四〇兆円にもよる金融資産がある。この金はほとんど貯蓄銀行に預けられている。こんな金融のあり方は現代の流れからは異常であり、これを投資銀行にいただこうというのである。メリリントンといった投資専門の銀行が長銀を買収し、日本の金融業に進出した。しかし、失敗の連続で、日本からの撤退が相次ぐという状況も生まれている。

四大金融グループ誕生は二つのことを明らかにした。一つは、三井、住友、三菱に代表された財閥というコンツェルンの再編成、もう一つは金がだぶついている中、庶民の預金はいりませんと、普通預金金利がなんと〇・〇〇―〇・〇一％に引き下げられたことだ。

日本の大銀行の合併は弱者の連合だ。弱者が連合して強くなることができるのは、労働者だけ。弱肉強食が常の資本の世界では弱者の連合は食い潰されるだけだ。みずほフィナンシャルグループに例をとれば、このグループは個人や国内一般事業法人を対象とするみずほ銀行、そして大企業を対象とするみずほコーポレート銀行となる。

ところがである。銀行の普通預金金利は現在の〇・〇二％からさらに〇・〇〇一％へと激減される。理由は四月一日にペイオフ解禁となった。ペイオフ解禁で普通預金に資金が流れこんだ。このためには預金保険機構に資金を積み増す必要があるからというのである。ようするに、運用不安を預金者の犠牲で乗り切ろうというのである。

大合併の投資効果はこれからだ。東京三菱銀行以外の三つ、四つのグループはまだ合併時の支店がそのまま新しい名称の看板で残っている。

九月を前後して支店の統廃合がおこなわれる。街の一等地に林立する支店群。それが消えてなくなる。そのあとにどんな企業群が入居するのか。武富士に象徴されるサラリーマン群？

(滝野 忠)

なりふりかまわぬ自治労攻撃

―帯広市長選での新たな傾向―

北海道帯広市は、かつて吉村博革新市長（後に社会党北海道本部委員長）など誕生させた地方都市である。四月十四日投票の帯広市長選挙は、激戦と注目されたが、結果は「やはり」、現職で自民推薦の砂川敏文氏が、民主党と一部保守系相乗り新人の大家徹氏を大差で退け再選した。

同市長選史上最多の五人による激戦となったにもかかわらず、投票率は五九・三四％と前回九八年の六八・八九％を九％以上も下回る低投票率となった。

北海道新聞は「地元の自民党衆議院議員中川昭一氏陣営の全面的な後押しに加え民主党が独自候補を擁立せず、相乗りの格好になった自民党衆議員元秘書の大家氏が、支持を受けた連合の労組票をまとめきれなかった」敵失に助けられたからだ」と解説している。

民主党や連合などは、黒子役で支援し「保守の対立をなくした新しい選挙」で「中川王国の一角を崩す」と無党派層に食い込みを狙い、新市立図書館建設問題、市立病院整備など「砂川市政の失われた四年」を争点に訴えたが、自民党衆議院議員元秘書の経歴の違和感を組合員が払しょく出来ず、三月市議会では「鈴木支持者もいる大家後援会への配慮」で鈴木宗男氏辞職勧告決議案の否決派に民主が加わったことで有権者の不信・戸惑いを受けたとと言える。

この選挙で驚かされたのは自民党推薦砂川候補の選挙確認団体「帯広新時代を語る会の労働組合の要求を否定した法定ピラ、自民党の階級的宣伝・演説であった。

「こんな要求には断じてNO！市の労働組合と合意した候補を容認できますか？」と大書し、「自治労帯広市役所労働組合連合会春闘統一要求」「組合・闘争五大要求」である、1、基本賃金の引き上げ要求、2、諸手当の引き上げ要求、3、労働時間の短縮要求、4、休暇制度の新設・改善要求、5、定員の確保要求について、「こんな要求がまかり通る時代なのでしょうか？中小企業で生き残りをかけて、真剣に働いて（いる）人々に対して説得がつかのめでしょうか？」と真っ向から批判した。

また、自民党・中川義男参議院議員は応援で、「後藤森重、知っている？ワイドショー番組になった自治労委員長。共済の金で……。トヨタ自動車は、一兆円の利益を上げているが、不況の中で組合は賃上げを要求しない。しかし自治労は賃上げとか権利を言っている。こんな労働組合がバックにいる人を帯広市長にさせてはならない」と自治労批判に終始するという状況だった。

これはためにする批判だ。不況の責任はどこにある。政権与党の自民党に責任ないのか！労働者に責任ない、賃上げ要求なぜ悪い！利益上げているトヨタ労組が賃上げしないことが、日本労働者の賃上げに影響し、所得が減少、景気回復しない要因の一つなのだ。それにしても、今回の帯広市長選であらわれた自民党の自治労攻撃、労働組合攻撃は、労働組合の恥ずかしい傾向とも相まって、道内ではむろん全国でも一つの傾向として拡大される傾向があるように思われる。労働組合の強化が急がねばならぬ。（帯広・S）

楽しかったお花見・春の句会

四月六日、高尾の多摩森林科学園のお花見・吟行と句会におもしろ半分に参加した。染井吉野はすでに散っていたが、桜湯に使われるあでやかな関山（カンザン）や羽二重のような松月（ショウゲツ）は大輪で紅色の花が見事に咲いていて、みなが歓声をあげ立ち止まって見惚れるほど。淡紅色のオオサワ（大沢）桜、淡黄色のウコン（鬱金）、黄緑色のギョイコウ（御衣黄）、白色のウスゲオオシマ（薄毛大島）、像の牙のようなながい雄しべ二本が愉快なフゲンゾウ（晋賢象）など珍しい桜もまっさかりだった。二百数十種約千七百本のその一つ一つがネーミングも面白く時間がいくらあっても足りない。大きな枝を横に広げた珍しい市原虎の尾は小枝が見えないほどに八重の花をびっしりとつけ、花びらが二五〇〜三〇〇枚もあるという兼六園桜はまだ蕾。それでも高いところでもちらほら咲いているのを眺めることができたが、思いのほか小さな花だった。

ぶらぶらと二時間ほどのお花見・吟行ののち、近くの市民会館での句会は、それぞれが詠んだ句を短冊に書くところから始まった。それを一覽表にまとめて、句会参加者が、天（三点・一句）、地（二点・三句）、人（一点・五句）と点数をつけていくのだが、私のように俳句のなんたるかがわからない者にとつては、短時間にすべてに目を通し選び出すことはなかなか難しい。私は句から受ける全体の印象をもとに選句したが、笑三郎さんは、季語や言葉の使い方、切れがどうか、単純なのがいい、一点に絞り込んだのがいいなど、かなり専門的なようで、観賞の仕方はやっぱり皆と違っている。龍念さんと熊野さんは、勝ち負けをも楽しんでいつも作戦をねって臨んでいるらしい。

結果は笑三郎さんが最高点。「花吹雪千仞（せんじん）の谷吹き上げて」「流水のごとく花屑寄せて来し」に天。次には、投句だけ参加の稚内の隣々さん。「驚つれて北風たおやかに流水（こおり）来る」「春光（しゅんこう）や海に降る雪淡く溶け」に天。句会の後の交流会では笑三郎さんが天に選んだ隣々さんの「驚つれて……」を絶賛し、「すばらしい。気品さえ感じさせる驚の優美な姿と広大な流水の景色が、目の前にも広がるようだ。ただ、直したほうがいい箇所が……」と指摘。「驚」と『北風』が冬、『流水』が春の季語で、一句に季語が三つあるのは煩雑。季語の分裂もいけない。そこで『北風』は『風』に直して、この句の季語を『流水』とすれば、『驚』は季語の性格をなくして流水の時期の驚となる。句を読めば、『流水』の方が主であることは明白」と。「驚連れて風たをやかに流水来」あるいは「驚連れて風しなやかに流水来」がいいのではと問いかけ、楽しんでいた。しかし、隣々さんは「氷が近いな」「風の冷たさがちがうぞ」「氷が入ったらしげれるぞ」などと日常的に「流水」を「こおり」と言っているからと修句には抵抗あり？のようだ。笑三郎さんも流水を見たことがないので、「たをやか」か「しなやか」か、その情景をみないと……と話は展開し、句をめぐる話の広がりやとりはとても面白かった。

また、句会に欠かさず参加する小学生の晶ちゃんがどんな句を詠むかも楽しみだ。とても率直で思いが伝わる句を詠むからだ。今回も、「見上げれば赤白黄色のプロッコリー」「森の中まるで桜の品評会」「花の精森の香をふりまいて」で「地」を獲得した。

私が天に選んだ句は稚内の彩穂久さんの「遙かなる船を影にして春の塵」、地は隣々さんの「水鳥の翼まぶしく春の海」、龍念さんの「花びらを運んで遊ぶ水の音」。私には詠めなかった「塵」「影」「光」「音」の魅力ある句だ。私の句、「散ればこそ夢を託すや八重桜」「やわらかな桜ひと枝頬をなげ」にも点が入りとっても嬉しい句会であった。（嘉峰）

未完のクーデター

―ベネズエラ政争の背景―

一九八〇年代、アメリカの裏庭だったラテンアメリカ諸国で国営企業民営化、規制緩和、FTA（自由貿易協定）の実験が世界に先駆けておこなわれた。山のようにたまった対外債務を支払わせ、アメリカを中心とする世界の巨大金融資本を安心させるためというのがその本質であった。

中南米諸国の国営企業（鉱山、石油、鉄道、電信電話、航空）等は民営化され、株式会社化されたすべての企業は欧米の民間会社に売られつくした。中南米諸国の経済活動はすべて外資に依存させられることになった。これを背景に中南米諸国に自由貿易地域がつくられ、はなはだしくは為替の安定を口実に、通貨のドル化政策がとられた。裏庭、中南米はアメリカ経済と一体化させられたのである。

その矛盾がアメリカに追隨する大金持ちととり残された貧しい人びとの対立であった。ペルーでとつじょフジモリが時の人となったのもこうした背景でのことであり、アルゼンチンで山のように積もった対外債務問題が顕在化し、デフォールト（債務の支払い停止）、ドル化政策の見直しがおこなわれたのも同じ理由によるものだ。

今度はベネズエラでのクーデター騒ぎである。ベネズエラは南米大陸一の石油産出国だ。中東の石油出国とおなじように、国家の財政収入の八〇％を石油にたよる。この石油を支配するのが国営石油会社・PDVSAである。したがって、このPDVSAをだれが支配するかがベネズエラの行方を決めることにもなる。

中南米諸国の民はさわめて貧しい。アルゼンチンでは失業者は一〇％だ、今度の経済混乱で二〇％にもなんて記事が伝えられるが、こんな数字はみんなウソっぱち、彼らに仕事を与え、どう生活を向上させるかが、中南米諸国の国の政策の基本だ。そのためには、ベネズエラではPDVSAから上がる石油収入を企業家でなく国家がどう管理し、国民の生活向上に回すかが焦点となる。

そのベネズエラでベネズエラ労働者連盟（CTV）とPDVSAが石油積み出し停止のストライキへの記事が流れたのが四月六日、四月九日には二四時間ストが開始され、ベネズエラでの混乱が顕在化した。ベネズエラ大統領は元陸軍中佐のチャベス。チャベスは九年自らがつくった政党、第五共和国運動から大統領選に立候補、右派の民主行動党、キリスト教社会党候補を破り、九九年二月、大統領に就任。その政策は①国会の解散、②判事の解雇（政界の腐敗一掃）、③対外債務の一時支払い停止というもので、それまでの政策を百八十度転換するものだった。

大統領就任後、キューバとの平和外交をおし進める一方、アメリカが「悪の枢軸」の元凶とするイラクのフセイン大統領と親交を深めたりした。今の中南米諸国ではきわめて珍しく、アメリカと一線を画す政策をおしすすめていたのである。そして、この一年、PDVSAの改革の乗り出した。石油生産への国家の管理・統制の強化である。

世界最大の石油輸入国はアメリカ。そのアメリカの石油輸入の一五〜六％がベネズエラからだ。したがって、PDVSAの再国有化と思われるチャベスの石油政策は、国内の親米勢力はむろん、アメリカを刺激した。ベネズエラ労働者連盟とPDVSAのストライキ

はこうしておこつたのだ。そして、このストライキを背景に、米軍と親密な関係にあった陸軍司令官、そしてベネズエラ経団連会長がチャベス追い落とし、事実上のクーデターを実行したのである。

これには中南米諸国が今回の政変はクーデターで支持できないと反発、さらにチャベスを支持する貧しい国民と国会議員がクーデターに抗し、国会を占拠。こうして、クーデター騒ぎは三二時間で幕を閉じたのだ。

ベネズエラといいアルゼンチン、さらには先般のペルーのフジモリの海外逃亡事件といい、今、ラテンアメリカは国営企業の民営化、自由貿易の反動が国を覆（おお）い始めている。(T)

脱原発は世界の流れ

— 浜岡原発を視察 —

昨年一月七日に世界で初めて水素爆発Ⅱ配管破断事故を起こし、さらに二日後の一月九日には炉水漏れ事故が発覚した、浜岡一号事故の現地を歩く・学習と交流の集いが二月二六日から二七日にかけて、脱原発とうかい塾の主催でおこなわれ、茨城ユニオンからも杉森弘之書記長が参加しました。

最近、原発への依存度世界三位のベルギーも脱原発に踏み切ったことが報道されているように脱原発は世界の流れです。事故の危険性ばかりでなく、経済コスト的にも高くつき他のエネルギーと競争できない、放射性廃棄物の処理方法がまったくない、などが明らかになってきたことがその原因のようです。

原発は地震に弱い構造 一行一〇人は二台のワゴン車に乗り込んで、常磐道の守谷SAを午前八時半に出発。首都高、東名高速を走り抜き、午後二時に浜岡到着。最初に係員の説明で四号機を見学し、一号機の事故説明を聞きました。

原発施設の内部を見学してまず感じたのは、大きな配管や配線が天井や壁を縦横に走り、しかもたいへん入り組んで据え付けられ、これでは地震に弱いなどということ。電力会社はよく原発施設は地震に強いと宣伝していますが、それは真つ赤なウソであり、特に施設内部の配管・配線は大揺れして破断されやすい構造になっています。このような原発が、東海巨大地震が間近いと言われる今も稼働し続けていることに驚愕せざるを得ません。

「原発は安全」のウソ 夜は、浜岡町原発問題を考える会の方々と交流。まず、静岡大学教員の小村浩夫さんが「浜岡一号事故の原因と問題」と題してお話。

今回の配管破断事故が、①非常用炉心冷却装置（ECCS）の要となる高圧注入系で発生したこと、②施錠された重さ六〇キロの鉄のドアを七メートルも吹き飛ばす水素爆発であったこと、③他の電力会社は同じ配管系統を持つ原発（全国で一五基存在）を事故後も稼働させ続けたこと、④中部電力も仕切り弁をつけただけで二号機を稼働させていることなどを指摘し、事故の重大性とその後の電力各社の安全への無責任性を強く批判しました。東海地震の前に 続いて、考える会代表の伊藤実さんが「浜岡町の概況と事故後の住民意識」についてお話。①浜岡町は東海村ほど核関連施設がないが、住民の多くが原発関連連会社に関係している、②炉水漏れ事故を起こした一号機は「耐用年数は一五年」ということで設置されたが、すでに二倍近い二七年間運転され続け老朽化が証明された、③裁判闘争

なども含め、一・二号機廃炉、東海地震の前に三・四号機運転中止、五号機建設中止を求めて、地道に運動を続けていきたいと語りました。

翌日は、電力会社が原発の安全を強調して宣伝する「原発は丈夫な岩盤の上に建てられている」の実態を見るために、その「丈夫な岩盤」といわれる相良層の地表露出部を見学。砂岩のためにボロボロで、とても岩盤と呼ぶに値しないものであることを実感。その後、一行は御前崎灯台を観光し、焼津でおいしいお刺身を食べるなど、楽しい思い出も作りながら、旅程を終えました。

◇ 読者からのおたより ◇

痛飲 三月二十九日午後八時三〇分頃、増田さんからの電話。「千代田区立九段中学校への転勤を、の内幕がありました」。ぼくは一瞬信じられなかった。しかし、彼女の声は弾んでおり、「これからぼくはうまくやりますよ。」と言った。二年六ヶ月もの長い間の研修センターから「釈放」されたのだ。ぼくは小躍りしたくなるような気分を押さえて何人かに電話した。このあと、ぼくは痛飲してしまつた。彼女の不退転の気概と大勢の支援者の「包囲網」の結果だと思つた。
(茨城・M)

編集部より 増田先生よかったです！ おめでとう。二年六ヶ月もの「懲罰研修」。あなたの気力、忍耐力、不屈の精神がなければ「不適格教員」をハネ返せなかつた！

退職・立候補 すっかり春らしくなりました。私こと、このたび、将来について決意することがございまして、三月三十一日付をもって高知県庁を退職いたしました。

今後は、二十四年間にわたつての県庁職員としての経験と労働運動で学んできたことを糧に、勤労者または弱い立場の人たちの目線に立つて考える政策のあり方や平和憲法の精神を暮らしと県政の隅々に生かしていくことなどをさらに勉強しながら、来年四月に予定されている統一自治体選挙に挑戦していきたいと考えています。
(高知・阪本 茂雄)

編集部より 新たな出発への決意に心から敬意。なにがなんでも勝つて！

韓国釜山労働者と交流 三月二十九日～三〇日、釜山で開かれた「新自由主義反対！ 韓国労働者民衆大会」に参加。二九日夕方からの前夜祭の後、基幹産業民営化反対と非正規撤廃をテーマとする討論会。私も国鉄分割民営化と一〇四七人の闘いについて報告。三〇日には釜山駅前広場で「韓国労働者民衆集会」。千人を超える労働者が参加。ここでも発言の時間をいただきました。集会後のデモは地下鉄の六駅区間を歩く長いコース。デモの終点付近では、流れ解散かと思つたところ、突然道路での座りこみ。これには驚きました。
(国労闘争団・T)

編集部より よい経験されましたね。国鉄闘争に生かして。

「冬物語り」 FAXとお電話ありがとうございました。「冬物語り」は滝野さんのように何回も見て下さり、また周囲の方に誘って下さる方がいて拡がっています。本当に有り難いことです。作品の出来上がりというより、国労組合員と家族の生き方が世の中に通じたのだと思います。これからよろしく願います。ご参考までに「ひとネット」のちらしお送りします。
(ビデオプレス・S)

編集部より 「冬物語」で国鉄闘争に勢いができました。さらにご活躍を。

「冬物語」学生上映会も 私が最初に見たのはBOX中野での最終日。その後四回、開催地近くの友人を誘い、感想を語り合うこともできました。四月十三日の「ビデオ上映と学生交流会」には口コミやインターネットで知り、参加者約二〇名。その一人の発言が頭から離れません。「僕のオヤジは僕が中学生の時に会社を首になり高校を終了するまで職がなかった。大学に入る頃に父は自殺してしまつて……。なんで父は死ななければならなかつたのか」と。国労闘争団の支えあつて闘う姿に大きな感動を寄せていました。学生交流会には誘える相手がいなかつたこともあり、東京の職場の近くの大学でチラシまきをしました。校門前では約四十分で受け取つてくれたのは一人だけ。仕方がなく、学内に入って、ベンチに座っている方や、待ち合わせをしている方など一人ひとりに語りかけながら手渡すこと二時間。二日間で二百枚をやつと配りました。参加した学生も「自分の大学でやりたいが、『過激派』とみられて……」と語っていました。気がなりました。
(茨城・K)

Kさん、さいなら！ このタイトルを見て、「オッ、彼退職するのか」と思つた人、違ふのだ。こ

のためめでたく（と言っているのか）管理職になったため「組合員」はクビ。支部・中央の委員長として活動・この日刊紙も書き続けて二〇年あまり。ご苦労様でした。もう日刊書きたいって書いてないんだからね。お騒がせ管理職になるなよ！

編集部より Rさんの生き方が問われるのはこれから。さらに頑張ってください。

（北海道）

「ものさし」は「ルール」だ！ 第七回被災者メーデーまで後一ヵ月。実行委員の「頭」がメーデーモード。そこで今年のテーマである「ものさし」。カンカンガクガクの議論のなかでやっと見えてきたものがありました。物差し。英語ではメジャーと書いていたら、英和辞典で調べたら「ルール」とものついていた」とある実行委員が発言。ここで「そうか、ものさしはルールか」「働く者のルールや」と一気にイメージが。今年のメインテーマは「ものさしはルール」という方向性が確認されました。

（被災者メーデー実行委員会）

編集部より ようやくと結論がお出になったようで、お疲れさまでした。

青森・E氏へ 「心豊かな団結」を厳然と持続しなければならぬのは、いつの世にあっても権力者であり抑圧者です。権力なき者、非抑圧者が「心豊かな団結」を了解し説くのは従属、敗北、逃亡です。四党合意反対闘争団員、家族と本部の有り様の本質の見極めを願う者です。

（国労闘争団・横田 厚）

毎日が楽しみ 先日、徳島の仲間と県内を回らしてもらいとても嬉しいこともありました。全通のAさんの提起でテレビビデオのカンパの件です。ビデオ上映会も『人権徳島』として取りくむとのこと。四国四件で二〇ヶ所前後くらいにはなりそうです。

（国労闘争団・M）

編集部より Mさんの活躍が目には浮かびます。お身をお大切にさらに頑張れ！

退職 昨年三月末をもちまして緒方郵便局を最後に一年早くリタイヤしてしまいました。三十八年間の郵政生活は楽しくもあり、苦しくもあつた思い出が数多くありました。毎日毎日、最高の日々を送っています。貧乏ですけれど、いくつかが写真ができています。近ちか送ります。（大分・S）

編集部より 「見晴荘」からの景色、絶好かなの季節。住居としてリタイヤ後の生活うらやましいかぎり。力がありあまつていらつしやるようですから、国鉄闘争の助っ人お願いしたい気分です。

座り込み総行動 JR不採用九十五年の二月一六日、JR帯広駅南広場で座り込み。今回はじめての手づくり昼食「牛丼」が闘争団家族と農団労の協力で用意され、国労攻撃やBSE（牛海綿状脳症）風評被害を吹き飛ばそうと舌鼓をうった。テント交流の川柳優秀作品。「良心も売らねばならぬ労働者」「冬だけどやがて芽を出す我が闘争」「心まであんな奴等に渡せない」

（帯広闘争団ニュース）

編集部より 十勝晴れだったけど、やっぱりシバれました。芽を出し、伸ばし、実を結ばせて。

介護受けながら リストラされてはや三年。介護を受けながらの生活です。健康に留意されがばって下さい。

（新潟・K）

編集部より お大事に。私もがんばる。

介護 母の介護でゆとりなく困ります。すこしづつガンバリます。購読料送ります。（新潟・K）

編集部より 私たちの世代の新しい社会問題です。私の妹は母の看護で、また従姉妹も教員をやめました。学校が管理、管理で「働く楽しみ」が消えつつあることも、一つの要素のようですが。

ニシン群衆（くき） 「寂しげに海を眺めて群衆（くき）を待つ」 これはRさんの春句会への投句です。私は「群衆」が読めず、何なのか問い合わせしましたところ、次のお話と「四月上旬、苫小牧西港で『群衆』確認」との新聞切り抜を送ってくださいました。「私は、生まれてからずっと稚内を離れたことが無く、海と山を駆け回って育った野生児です。四〇年以上前になりました。私は、波ざわがニシンの産卵で何百メートルも牛乳を流したように、真っ白に海面が変化し、ニシンが山のように獲れたのを子供の頃覚えています。この状態を「群衆る」（ニシン群衆）と言っていました。その頃を記憶している老漁師さんたちと今も親交があります。ニシンが来なくなった今でも三月になると自宅の窓や浜辺に出て、鉛色の空（にしん曇りの空）を見上げ、少し明るさの増した北の海を毎日見て、来ないニシンを何十年も待っているのです（本人も来ないのを知っている）。そんな背中を見て、「もう来ないよ」「群衆することはないよ」と言えずに、「ニシン来ればいいね」と思わず言ってしまう。そんな毎日を今でも送っているなかでの風情で、寂しげに海を眺めて群衆を待つ、になったのです」と。老漁師さんとRさんの心の通う会話と情景に目頭が熱くなりました。

◇ お知らせ ◇

次号は連休にともない合併号（11・21号）となります。発送は五月十四日になります。